

令和元年度 家庭教育オピニオンリーダー研修① 実施報告

実施日：令和元年9月3日（火）

○ 開講式

○ 説明「県の家庭教育施策と家庭教育オピニオンリーダーの必要性」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 山崎 浩之



家庭教育を取り巻く現状や家庭教育支援の課題を踏まえ、県として家庭教育支援施策をどのように進めていくのか、そしてどのようなことをやっていくのかについて、説明を受けました。

説明の後半には、家庭教育オピニオンリーダーの必要性について説明を受けました。本研修が昭和62年に始まったこと、そして研修を修了した方たちが「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を組織し、各市町で家庭教育を支援する様々な活動を行っていることなど、地域に根ざした家庭教育支援が行われていることを知ることができました。

○ オリエンテーション「フィールドワークに向けて」

県内各地で実施されるオピニオンリーダー連合会の支部活動とブロック研修を、本研修のフィールドワークに位置付けていることから、趣旨についての説明の後、日程や会場等の確認・調整を行いました。

○ 施設見学

栃木県総合教育センターボランティアの会

センター内を、センターボランティアの会の方に案内していただきました。本研修で使う研修室や、今後講師として対応いただく関係部の執務室の場所を確認しました。また、図書資料室と学習情報センターでは担当の職員から説明を聞き、それぞれの施設の活用法についても知ることができました。



○ 講話「子育て家庭の現状と課題」

帝京平成大学臨床心理学研究科臨床心理学専攻 准教授 谷田 征子 氏



谷田先生からは、子育て家庭の様々な現状として、少子化の中での子育てや、親子を取り巻くさまざまな情報の渦などの話から、子どもが子どもらしく、親が親らしく生きるのがなかなか困難な時代になっている、とのお話がありました。そのような中で、「教育」は「教える＋育てる」こと、「教える…他者に意図的に働きかけることで、望ましい変化を促すこと」「育てる…育つ、育む」という視点を持つことの大切さもお話いただきました。

講話の後半では、新聞記事をもとに親子・家族の関わりについて受講者同士話し合う場が持たれました。どのグループも積極的に話し合わせ、また、多様な考えに触れることで新たな気付きも生まれていたようです。そして、大きくうなずきながら発表を聞く姿からも、有意義な協議だったことが感じられました。

結びでは、谷田先生から「支援者自身が相談できる相手やゆとりを持つこと」「支援者のリフレッシュの大切さ」についてのお話があり、寄り添ってくれる人を持つ大切さ、寄り添ってくれる人がいる心地良さを、受講者は感じていたようでした。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・ 県で家庭教育支援事業がたくさん行われていること、身近なところにあることを知りました。
- ・ 講師の先生はもちろん、グループ協議で一緒になった方々のお話もとても参考になりました。
- ・ 寄り添う支援ということが心に残りました。具体的に今できることを考えていけると良いと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp